



**中川市政3年の総括と
今後の重点取組は**

橋本 洋一（久比岐野）



Q 中川市政3年間の総括を聞きたい。また、今後の重点取組と新年度予算への反映は。

A 暮らしの安全・安心の確保を最優先に取り組んできた。任期4年目は地域医療体制の確保、災害に強いまちづくりなどを優先課題とし、令和7年度予算では財政健全化にも意を用いつつ、必要な投資を行いたい。

高齢者の交通事故防止を

Q 当市の高齢運転者の実態と交通事故防止施策の取組状況はどうか。

A 65歳以上の免許保有者は年々増加し、令和5年末には4万人を超えた。高齢者の交通事故防止は、啓発活動や安全教育などを中心とした取組を推進している。なお、運転免許証の自主返納支援としてタクシー券等を交付していたが、この事業が免許返納のきっかけとなっていて例が少なかったことから、廃止したところである。

一人暮らし高齢者の孤立化防止対策は

Q 孤立化の実態と防止対策を聞きたい。

A 一人暮らしの高齢者は、令和6年は1万1,600人を超え、5年間で約1,700人増加した。一人暮らしの高齢者が地域で孤立しないよう、支援が必要な世帯の状況を把握し、確実に見守ることができる体制づくりを進めている。



**謙信公の周年記念事業を
意義あるものに！**

高橋 浩輔（みらい）



Q 謙信公の没後450年、生誕500年に向けた取組についての見通しは。

A 謙信公の周年は、記念すべき重要な節目と認識している。令和10年の没後450年は「偲ぶもの」、令和12年の生誕500年は「祝うもの」と2つの節目を「静と動」という性格を異にする一連の周年と捉えつつ、記念事業としては生誕500年を主軸に置いて実施する。実行委員会の立ち上げは令和8年度を視野に入れ、令和7年度にかけて関係者との調整を進める。

Q 宮城県多賀城市の「多賀城創建1,300年記念事業」の実行委員会は、名誉会長に宮城県知事、副会長に宮城県教育長を迎え、県との連携を明確に打ち出した。参考にしてはどうか。

A 県との連携については、今後更に検討したい。

Q 記念事業を計画・実施するに当たり「誰のため、何のための事業なのか」といった目的を明確にして取り組むべきではないか。

A 「未来の上越市民にどうやってつなげていくのか」ということが大切である。上越市の未来が見えるような事業にしていかなければならない。気運の醸成を含め、春日山から市内全域に広がっていくような仕組みをつくっていく。春日山城跡や周辺の整備もその理念のもとに進め、ソフトの教育事業も含めた事業全体を、生誕500年の年に向けて進めていく。

春日山地域(春日山城エリア・観光拠点エリア等)の将来イメージ



建設費21億円の
観光拠点施設

「国土地理院地図」(国土地理院) (https://maps.gsi.go.jp/#16/37.146053/138.216290/&base=ort&ts=ort&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1)を基に作成

通年観光計画の中で、観光拠点施設の整備が計画されています。



**通年観光と産業振興、
施策の優先順位は？**

江口 修一（久比岐野）



Q 通年観光に49億円かけるより、産業振興や企業誘致を優先すべきではないか。

A 現在の通年観光計画は、令和12年度までに具現化を目指す施策の構想を取りまとめたもので、今後の事業化に当たっては、財源と優先順位を勘案して実施を判断する。